

『ワークショップを通じた子どもの絵の国際交流』
～日本・ミャンマー外交関係樹立(平和条約締結)60周年記念～ 事業

日本とミャンマーの次代を担う子どもたちが
絵を通じてふれあう交流展覧会を開催

2008年より毎年アジアの国々との間で行われて
いる子どもの絵による国際交流絵画展。7回目とな
る今年度は、我が国との外交関係樹立60周年を迎
えるミャンマーとの間で開催された。交流展の目玉
は、共同作業で絵を描き上げるワークショップ。日緬
(日本とミャンマーの)大勢の子どもたちが参加し、
両国の新たな交流の芽が生まれた。

異なる環境で暮らす
日本人学校とヤンゴンの子ども 200人が参加

「絵は世界の共通語」。NPO法人 国際教育情報交流
協会は子どもの絵を通じた国際交流を推進する実行委
員会の中核として、これまで中国、タイ、韓国、インド、ベ
トナム、ネパールとの間で実施してきた。2014年は日本
とミャンマーの外交関係樹立(平和条約締結)60周年に
あたることから、交流先としてミャンマーが選ばれた。今
回はヤンゴンと東京で子どもの絵の交流展を開催するだ
けでなく、子ども同士の交流を深め、造形の楽しさを知っ
てもらうためのワークショップをヤンゴンで実施した。

イベントに参加したのは、ヤンゴン日本人学校、養育施
設ドリームトレイン、ミンダーミョウ寺子屋学校の、
合わせて200人の子どもたち。ドリームトレインは日本の
国際医療ボランティア団体ジャパンハートにより設立さ
れた施設で、貧困による人身売買や親の虐待から逃れて
きた子どもたちを受け入れている。一方、寺子屋はお寺が
運営する完全無償の学校で、ミャンマー全国にあり貧し
い家庭の子どもたちの教育を担っている。2010年より実
行委員会に参加している同協会事務局の権和江さんは、
「日本人学校、養育施設、寺子屋学校という異なる環境
で暮らし、さまざまな事情を抱えた子どもたちが絵を通じ
て交流できたことで、意義のある活動になったと思いま
す」と話す。

絵の交流展は、創立50周年を迎えるヤンゴン日本
人学校の記念行事に合わせて2014年11月1日～6日に同
校体育館で開催された。ミャンマーの激動の時代のなか
でも絶えることなく続いてきた学校にとって、この交流展
は平和を願うまたとない催しとなった。

これに先立つ7月20日、ヤンゴン市内のミンダーミョ



共同作業で墨絵を描くワークショップの様子 (ヤンゴン日本人学校)



日本人学校とミャンマーの子どもが一堂に会した表彰式

ウー寺子屋学校にドリームトレインと寺子屋学校の子ど
もたち101人が集合。本事業の実行委員会の副委員長で
あり、日本で長年小学校の図画工作教師を務めた鈴木
弘之先生の指導のもと、絵描き教室が開かれた。テーマ
は「私の生まれたところ、故郷」。ミャンマーでは学校で図
工を教わる習慣がない。子どもたちは戸惑いながらも自
分の想いを自由に描いていった。「自然が豊かなミャン
マーらしくどの絵も緑にあふれていました」と、権さん。こ
の日描かれた101点と、ヤンゴン日本人学校の子どもた
ちが描いた99点、計200点の絵が交流展で展示された。

子どもたちの共同作業で
ヤンゴンの風景を描いた巨大な墨絵が完成

交流展の目玉となるワークショップは、11月1日にド
リームトレインで同施設と寺子屋学校の子どもが参加し、
また4日にヤンゴン日本人学校で同校の生徒が参加して
行われた。指導する鈴木先生が考案したこのワークショッ
プは、日本から持参した長い障子紙に子どもたちが共同
作業で墨絵を描くというもの。子どもたちはもちろん初め
での体験で、寺子屋や施設の先生方も興味津々。「最初
に大きな木をひとり1本描いてみよう」という鈴木先生
の呼びかけを合図に、思い思いに木や川や動物などが描
かれ、子どもたちが「みんなで創り出す喜び」を共有する
ひとときとなった。共同作業で完成した巨大な絵はその
まま展覧会会場に展示され、子どもたちの家族をはじめ
訪れた多くの人の驚きと感動を呼んだ。

交流展最終日には、日本人学校とミャンマーの子ども
たちが一堂に会し、実行委員会の永井多恵子委員長から
全員に賞状が渡された。

6日間熱帯の湿気の中で展示された子どもたちの絵
は、その後梱包されて日本に運ばれ、2015年2月1日～
6日の東京展(CCAAアートプラザ 四谷三丁目ランブ

担当者より



ミャンマー行きは
良い経験になりました

NPO法人
国際教育情報交流協会
事務局
権 和江さん

これまで訪れたアジア諸国に比べてミャンマーは遠く、予
算面以外にも衛生面など気を遣わなければならないこと
が多く大変でしたが、良い経験になりました。これからど
こへ行っても頑張っていけると、皆思いを新たにしていま
す。今回の活動が実現できたのもAJOSCの助成のおかげ
です。本当に有り難うございました。

坂ギャラリー)で公開された。会場には巨大な墨絵も展示
され、また、ヤンゴンでの交流展やワークショップの様子
もDVD映像で披露され、多くの来場者が両国の新たな
交流の目撃者となった。

最後に、権さんは今回の活動をこう振り返る。

「厳しい環境におかれている子どもたちが実にいきいき
とした表情で絵を描く姿を見て、改めて絵の持つ力を感じ
ました。『もっと練習して画家になりたい』、『日本のこと
を勉強したい』という声が聞かれたのも嬉しかったです。
この活動で、子どもたちが外に目を向けるきっかけとなっ
たら、ミャンマーに行った大きな意味があったと思います。
本来なら、日本から子どもを連れて行ったり、日本にミヤ
ンマーの子どもを招いたりしたかったのですが、予算的な
問題もあり今回は叶いませんでした。これは今後の課題
とします」



ミャンマーの子どもたちが描いた絵 (東京展)